

<こんにちは「久御山町長」>



次世代に誇れるまちづくりをしていこう

～コロナ禍を乗り越え「人と人との絆の再構築」で～

信貴康孝さん (久御山町長)

岡本哲也さん (京都自治総研副理事長・自治労京都府本部執行委員長)

進行／**高橋直樹さん** (京都自治総研専務理事)

今道洋輔さん (久御山町職執行委員長)

長棟美子さん (久御山町職副執行委員長)

財政再建団体から不交付団体へ

先人のまちづくりに感謝

高橋 今日はお忙しい中、お時間を頂きありがとうございます。どうかよろしくをお願いします。

岡本 私は京都市役所の出身ですが、今や京都市は財政危機です。一方、久御山町は地方交付

税の「不交付団体」ではありますが、町長が十数年にわたって町運営にかかわってこられた中で、独特な苦労があればぜひお聞かせいただきたいと思います。

信貴 去年で地方交付税の「不交付団体」としては51年目で、町制68年となり、その中で51年も維持させてもらっています。町制が始まる1954年の前年に宇治川左岸の堤防が破堤し

ました。町全域が水に浸かったという水害があったんですが、その翌年にもかかわらず、久世郡佐山村と御牧村が合併して久御山町ができました。

しかし町制施行開始から1960年ごろまでは、財政再建団体に指定されるほど厳しい財政で、当時の方々に聞くと、使用した封筒も1度解体して、裏返して使っていたという苦しい時代があったと聞いています。新人の職員の方にもお伝えしていますが、そんな先人のみなさんの苦勞があって、1966年に国道1号が開通、戦争中にあった飛行場の跡地を「工業専用地域」に変えていこうということで、計画的なまちづくりをしてまいりました。そして今では、約1,600もの事業所に恵まれているということです。先人のみなさんのまちづくりのおかげ、ひとえにみなさんのご尽力のおかげと感じています。

また本町の特徴は、企業の業種が様々で、1つの企業の城下町ではなく、何かが起こっても全部が落ち込むということはありませんでした。これもまちづくりのおかげと感謝しています。これをどうやって維持していくか、まず「安心・安全」を土台にして、その上にさまざまな施策が成り立つものと思っています。久御山町は、もともとグラウンドレベルが低いという地勢的な課題を抱えていますので、町を維持していくためにも「安全・安心」が第一かと思っています。

コロナ禍で感じた

「人と人との絆の再構築」の重要性

高橋 コロナ対応で3期目は大変だったと思いますが、コロナ対策で町として困られたことや工夫されたこと、さらにウィズ・コロナ、アフター・コロナへの展望についてお聞かせ下さい。

信貴 新型コロナも当初は得体のしれないウイルスだということで、非常に危機感をもちなが

ら、経済活動が一旦ストップしました。事業所だけでなく、農業にもどういった影響を与えるか不透明なところがありました。状況を把握するのが大変で、出向いてもいけない、電話でも正確なところが伝わらないので、商工会を通じてや産業コーディネーターをお願いしてヒアリングを行いました。

大きく営業が落ち込む業種もあり、その時にマル久持続化応援金を事業者向けに実施させていただきました。当初7,800万円の補正予算を組みましたが、申し込みが多くて2回目の補正、さらに3回目の補正をして、合計約2億7,800万円の補正予算となり、最終的に2億4,000万円台の需要があったということで、影響の大きさを実感しました。また先々が見えませんでした。みなさんも大変不安を抱えておられました。住民の方も外出ができずに、高齢者の方が運動不足でフレイルになる懸念もありました。それをどう支え、自宅で健康維持をしていただけるかが、大変な部分だったと思います。

またマスクが当初、とても不足していました。久御山町では備蓄として、高齢者1人にだいたい5枚分の備蓄がありましたので、職員が手分けして、役場のコンベンションホールで、手作業で5枚ずつラッピングして封筒に入れて配布しました。その後、住民のみなさんから「助かったわ」との喜びの声を聞いて「本当にありがたかったな」と思っています。

高橋 当時は全くマスクが手に入らなかったですからね。

岡本 久御山町の税収の特徴は、他の町村と比べて固定資産税や法人町民税などが大きいことですが、固定資産税には徴収猶予はあるものの調定額は変わりませんが、法人町民税は売り上げなどに大きく左右され不交付団体としても大変ですね。

信貴 法人町民税の収入は2億数千万円下がりました。「これはきついな」と思っていたところ、たまたまその年に固定資産税が増収となり

ました。大手企業さんが機械の更新をされ、その固定資産税で収入が救われました。

高橋 町民運動会も始められて、町の催しも少しずつ再開されておられるようですが。

信貴 昨年 9 月から「感染予防対策と社会経済の両立」ということで、本格的にウィズ・コロナに移行し、行事等も徐々に開催できています。春からは感染症法上の位置付けを 2 類から 5 類へという話もあります。ただ自治会の活動を見ても、簡素化されてきている傾向や、役員のなり手不足など、「地域コミュニティの希薄化」が心配です。町民運動会も 38 の自治会がある中で、自治会としての団体種目には 6 つしか参加されていません。そういうところに危惧を感じています。自治会長さんと話をしても「参加者を元に戻すだけでも労力がある、なかなか一筋縄ではいかないよ」とおっしゃいます。今、「人と人との絆の再構築」をどうしていくかが重要だと思っています。令和 5 年度予算も「絆の再構築予算」と名づけ、年頭訓示でも職員のみなさんに「職員同士の絆、住民のみなさんとの絆、住民のみなさん同士の絆をどうしてつなげていくかを議論してほしい」とお願いしました。



岡本 労働組合もコロナでなかなか集まりにくくなりました。でも逆に、リモートでパソコンを使って、ZOOM で会議を行うことなどは、コロナがなかったらやらなかったと思います。町の運営でも、たとえば町長との会話にしても、

通常はここまで来てもらわないとできないのに、ZOOM だと意見を聞けるとか、こういう方法も元々あったんでしょうけど、役所も労働組合も遅れていたのかなと思います。直接の対面ではありませんが、言葉を交わせるという新たな手法が出来ました。もちろん対面の方がいいのですけど。

信貴 それはそうですね。見えてきたものもあると思います。でもすべてではありません。物足りない面があったり、夜も感染予防に対処しながらの会合もあつたりしますが、「お会いしてしゃべるのは、よろしいですね」と誰もがおっしゃるところであります。

高橋 最近、円安と合わせて物価がすごく上昇してきています。企業がたくさんあるので影響も大きいと思われませんが、何か状況について聞かれていますか。

信貴 企業のみなさんは「厳しい」とおっしゃっています。燃料エネルギーも電気代もすべて高騰していますし、特に輸入に頼っているところでは円安が本当に厳しいかなと思います。ただ輸出を専門とされているところは、原材料の値上がりの影響はあるかもしれませんが、業績はいいようです。現状では、前年を上回っているところもあります。物価高騰対策に関して、農家の方は肥料が大変で、農作物は価格に転嫁できにくいので緊急支援をさせていただきました。また、全般に燃料費も上がっていますので、コロナ対策として実施してきました水道料金の基本料金の減免、これを今年 2 月、3 月分も実施させていただこうと思っています。

もう一つは小学校の給食の材料費の補助、材料費も上がっていますので、補助を実施させていただいています。影響はどんな部分でもあって、この庁舎も昨年 12 月、電気代の補正予算を組みました。それぞれにかなり影響が出ています。今後も建築資材や建設費など、まちづくりに向けても「高騰が怖いな」と思っています。

みんなで築こう

次代に誇れるわがまち「くみやま」

岡本 町長はまちづくりの基本理念を「みんなで築こう、次代に誇れるわがまち『くみやま』」とされておられます。その思いを少し聞かせて下さい。

信貴 もともとこういう世界をめざしていたわけではありませんが、宇治の青年会議所で10年ほどお世話になって、同年代の人達が真剣にまちづくりや人づくりをされていることを経験させてもらいました。

そして私の人生哲学として自分が生まれてきたことを考えた時、若い時は刹那的に、自分がどうなっても世の中全然変わらないと思っていましたが、よくよく考えると、ここにおられる方々の後ろに連綿と続く命の糸があります。先人のみなさんは後世に何を託してきたのかと考えると、「よりよい世の中をつくってや、幸せになってや」と思って、みなさん、やってこられたのではないかと、そしてそれぞれの命が実践の先端にあると気づいたんです。私自身や今を生きる世代の方々の使命的なもの、自覚しなくてもいいんですけど、「世の中をよくしていこう」ということに否定的な意見はないのではないかと思います。そんな使命を帯びて「次世代に誇れるまちづくりをしていこう」と、そしてそれを実践し「次世代のために何ができるか」を考えることが、「未来をよくする第一歩につながっていくんだ」という思いで、この基本理念を町議会議員の時から掲げています。「次代へ誇れる」というのは次の世代の方が「よかったな、先人がこうしてくれて」ということを思っただけのような世の中、まちづくりをしていきたいなということです。そんな思いで基本理念として掲げさせていただいています。

高橋 そんな基本理念を実践してこられて「これは思い出に残っているな」というようなこと

はありますか。うれしかったこととか。



信貴 悲喜こもごもありますけど、「やってよかったな」というのは、コロナ対策にしても緊急的に職員とともに協力し、そして住民のみなさんの喜びの声を聞けたことは何にも代えられない喜びです。それを職員のみなさんにも伝えられないといけないと思っていますし、住民のみなさんに生活を満足していただけることが一番だと思います。そしてそれが、どんな施策に関しても最善策ではないかということを中心に、そのような歩みを進めてきて、いろいろと物事の構図を描ける、施策を立てることは我々執行部の責任であり、それもまた、ひとつの「ありがたさ」というものを感じます。

すべては「安全・安心のまちづくり」の上に

岡本 3期目の公約で出されている『歴史の創造 く・み・や・ま 夢実現計画』55の宣言、この公約を出され、総合計画を含めて実現していかれるということですが、実際にいろんな項目、「防災」から「子育て」「教育」までありますが、特徴的なものがあればお聞かせ下さい。

信貴 「安全・安心のまちづくり」の上に、すべてが成り立つと考えています。「治水対策」に重点を置きながら、「防災行政無線の設置」など、いかにして安全性を上げていくのか、また「防災・減災」を含めた「意識の啓発」など

についても、大きな課題ではありますが実践していきたいと思っています。

岡本 地域のマスコミ報道では「内水排除対策とリハビリテーション病院を含む 55 の公約を上げて 3 期目の当選」という見出しになっていました。

信貴 3 期目に掲げていたのが、「総合戦略」の柱としての「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』構想～夢いっぱいコンパクトタウンくみやま C C A C 構想～」です。この構想は町の中で全世代の方に活躍していただくということで、基本理念は「誰もが居場所や役割を持ってつながり交流することで、健康でアクティブな生活を送ることができ、あらゆる世代の方が必要に応じて医療や介護を受けられるまちづくり」です。また合わせて「若年層や障害をもった方が町内で仕事を確保できるまちづくり」、「女性が安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくり」を行う「久御山モデルの地域共生社会の実現」を図ろうというのが構想理念です。

それぞれのエリアをどうしていくのかを町内に散りばめていまして、その 1 つが医療エリアゾーンの「メディケアゾーン」です。京都岡本記念病院を中心として、特別養護老人ホームなど、今まで誘致してきたところにリハビリテーション病院を加え、「急性期医療」「リハビリ」「介護」の 3 つが揃うゾーンになります。「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』構想」の中の「誰もが地域で医療や介護を受けられるエリア」という部分を報道されたのだと思います。

岡本 役場の前の道路を含めて東西の道路（府道）が混雑すると思いますが、そのあたりは何か考えておられますか。

信貴 府道宇治淀線の右折レーンへの対応などについては、府道ですから京都府にも検討していただいています。また、南北の道路は大きな国道 24 号、第二京阪道路、国道 1 号があり、恵まれています。しかし、いかにせん昼夜間人口比率が 1.77 倍という状況の中で、朝夕の流

入が多いんです。府道八幡宇治線、府道宇治淀線が混雑するので、それをどうやって緩和していくのが課題です。北の方で京都府に要望しているのは、イオンの向かいあたりに第二京阪道路から入ってくる道がありますが、橋脚がそこだけ空いています。以前から東へ伸ばしたいと町は考えをもっていたんです。また緩和には東西の軸が必要で、旧国道 24 号に伸びる道が実現できれば緩和につながると思っています。みなくるタウンの幹線道路にも新たなバイパス的な道をつかってスムーズにしていくことも、先行してできるのかなと思っています。

役場前の府道宇治淀線に関しては、町内で考えてもバイパス機能の道路が無く、広域的には城陽・八幡間で橋をかけて第二京阪道路までつなぐというようなことも要望としてあるようですので、他の行政区のことではありますが、進めていただきたいと要望を出しています。そういったことを中長期的に実現できれば抜本的な改善につながっていくと思います。

岡本 「地域公共交通網の形成計画の推進」の中で「EV（電気自動車）とか自動運転技術の活用」との記載がありますが、どういうことを考えておられるのですか。



信貴 自動運転技術がどこまでできるか分かりませんが、早期に進化してほしいと思っています。EVに関しては、ゴルフ場のカートの大きさの車で行けないかと実証実験をしたんですが、淀駅まで公道を走ることがままならないという

ことでした。また、コロナ禍で実際の実証実験も本格的にはできませんでした。しかしその反面、コロナ禍で乗合が困難だということで、淀駅まで直結のデマンド交通としてのタクシーを認めてほしいとお願いしたところ、御牧地域からの直行が実現しました。公共交通に関してはいつも賛否両論があり、コミュニティバスを廃止したことで議論がありました。結果的にはコロナ禍の中で、一定の課題解消ができたのかなと思っています。これまでからも行政がやる公共交通は、「施設間の移動」と「高齢者の外出支援」「交通不便地の解消」という3つの柱に加えて、「民業圧迫にならないように」という視点で議論を進めてきました。

高橋 「くみやま夢タワー 137」のライトアップについてお聞かせ下さい。

信貴 町のプロモーションの中で、なかなか知名度が上がらないという課題がありました。久御山高校が全国高校サッカー選手権大会で準優勝した年のニュースでは「久御山」だけがルビを振ってあるんです。どこへいっても「くみやま」とは発音してもらえないので「くみやま夢タワー」は、ひらがなで書いています。またできる限り、対外的なものにはルビを振っていません。知名度を上げることもプロモーションのひとつです。また、久御山町の特性はフラットな地形、山のないフラットな交通の要所で、1日に何万台もの車に「この下は何だろうな？」と走っていただいていることです。そして夜だけになりますけど、いずれは「このタワーがあるところに、いい産業があって、農業もあって、いい教育、子育てもある」という認識につなげていただけるような町のプロモーションのツールとして考えています。

高橋 夜景で映っている時に「こんなに美しいタワーがあったのか」と再認識しました。

信貴 よく黄昏時にヘリコプターが鉄塔の周りを回っています。だんだん浸透していくのではないかと思います。私もあまり意識してい

なかったんですけど、大学の友人が「何、あれは？」と特異に映ったようで、それが印象に残っていて「何か使えないかな？」と、電気代も比較的安いので、いいプロモーションツールになっています。京都タワーよりも高いんですよ。**岡本** プロモーションと合わせて、「住む、やすらぎのまちづくり」ということで、「全世代・全員活躍まちづくりセンターの整備」とか、定住支援でも3世代住居に補助を出しておられますね。

信貴 3世代の方が住むということで引っ越してこられた場合に補助を出すのですが、なかなか利用者が少ないので、もっと啓発していかなければと思っています。

岡本 教育関係では中学生に「ゆめスタ」などの事業をされていますね。

信貴 これは「学力アップ事業」ということです。学力調査の結果、本町の中学校はかねてから府の平均値と比べると低いということがあったり、荒れている学校があったりと、就任当初はいろいろと課題がありました。そこでまずは落ち着いた学習環境になるように、SSW（スクールソーシャルワーカー）の方に来ていただいたり、京都府から京都式「効果のある学校」推進事業の指定をいただくなどして、だんだんと学校も落ち着いた教育を取り戻してきて、大きな問題もなくなりました。そこで間髪入れずに、さらに何とか教育環境の向上をめざしたいと思ひまして、町内では塾に通う方が少ないということだったので、「安い塾を町内でもできないか」ということで実施しました。

高橋 「歩くまち・くみやま」の取り組みについても少しお聞かせ下さい。

信貴 フラットな町で起伏がないので、高齢の方も歩いていただけるのではないかと思います。推進協会をつくって、コースとか、お手洗いが途中にあるとか、何が必要なのかとかを議論していただいています。結果として健康長寿、健康増進につながり、「医療費の軽

減」にもつながっていけばいいなと思っています。それにプラスして、昨年 12 月に可決された「環境基本条例」を踏まえ、「環境基本計画」を策定する予定ですが、脱炭素の面からも歩いていく、そんな観点もあります。そういう思いで「歩くまち」を宣言していますので、できればみなさんに歩いていただきたい。昨年 1 月 3 日はちょうど 1 年目でしたので、「中央公園から歩いて農産物直売所めぐりをしよう」と呼びかけました。国道 1 号の農家地域に直売所がありますので「朝採りのものを買って帰りましょう」と動機づけをして、工夫しながら歩き回っていただける町にしたいと思っています。



高橋 久御山町で「歩く」という発想はあまりなかったですね。国道 1 号とかもすごく交通量が多いので、でも意外と歩くところがあるんですね。

信貴 結構、のどかなところがあるんですよ。

岡本 田畑のあるところを通らないので、あまりわからないんですね。国道 1 号とか高速道路しか通らない、でもグーグルマップで見たら畑や田んぼの地域が結構ありますね。

高橋 中央公民館が「まちづくりセンター」、中央公園を「まちなにわ構想」としてこれからのコミュニティの交流の場の中心として位置づけていかれるようですが、そのあたりの思いをお聞かせ下さい。

信貴 「全世代・全員活躍のまち」で拠点となるのがまちづくりセンターで、「全員活躍まち

づくり施策」と位置づけていまして、中央公民館はこれまで社会教育や生涯学習の拠点だけでしたが、そこに「多世代の交流」、「子育て」関係、「防災」、「多文化共生」など 7 つの要素を加えました。みんなが集まり、コミュニケーションが始まる、そのことが第一歩で「あそこへいけば何かがあるだろう」というような拠点にしたいと思っています。

加えて、まちづくりセンターを内庭、中央公園を外庭として位置づけ、住民団体のみなさんにもコロナ禍の間、隙を縫ってイベントをしていただいています。「子育て世代の方々がこんなにたくさんおられたのかな」と思うほど、多くの人たちに集まっていただき、自前の手作りのイベントをしていただいています。地域の活性化として、「町のイベントに参加してやろう」ではなく、町がサポートして住民主体でイベントをしていただくことが町の活性化につながっていくのかなと、今期待しています。「まちのがっこう」というイベントもあって、趣向を凝らした大人用の「焚き火とワイン」とか、早い時間帯はマシュマロを焼いたりしていました。そんなことをやっていただく中で、「まちなにわ構想」として「食」をテーマに、中央公園で住民の方と工場で働く方、農家の方が交流をしながら憩いの場をつくっていける、「全世代を内庭と外庭でつなげていこう」と、そんな思いがあります。

岡本 「次世代につなぐ」ということで言えば、今日の新聞に「月 200 円の京都府の子どもの医療費助成を拡充」と出ていました。そうすると町で支出されていた分の財源を活用できますね。

信貴 今、すでに 18 歳まで拡充しています。最初は入院を 200 円にして、その後通院を 1,500 円にしました。今回の京都府の拡充でどれだけの効果があるのかは分かりませんが、浮いた分を活用して新たな展開ができればいいなと思っています。

岡本 連合京都と京都府知事との政策要請の時

にもこの件は要望させていただきました。ただ、このことによって各自治体で捻出された財源が、いかに「子育て環境日本一」に活用していただけるか、そこが課題だと言われていました。住民のみなさんも子育て支援にプラスαで実施してもらった方がありがたい、地方公務員でも30歳くらいで家賃を払って子育てをすると厳しいですからね。「実際の出費として必要なおむつとか、絶対必要なものに回していただく、そういうことができませんか？」と要望してきました。各自治体がプラスαで「子育て支援政策」を実施していただく、それがいいかなと思いますね。

高橋 ぜひとも「絆の再構築予算」で活用して下さい。

信貴 そうですね。令和5年度は「絆の再構築」、そのキーワードでいきたいと思っていますからね。

岡本 興味を引いたのが「令和4年度フードトラック事業」です。確かにお昼を食べるところが少ないですね。

信貴 コロナ禍でもあり、密になっているところに行くよりは外で食べる。室内で仕切りをして黙食もしていますけど、感染予防には役立つかなと思っています。

岡本 以前「工場でのお昼は、食堂をつくるのかしないかダメなんですわ」と話をしていたことを思い出して、「これは面白いな」と思いました。

信貴 それに「久御山産野菜を使っただいて」ということも実験的にやっています。

「チーム久御山」みんなで久御山町の歴史をつくっていこう

高橋 それでは最後に職員に向けて、組織づくりや適正配置、さらには「働き方改革」等も含めまして、思いをお聞かせ下さい。



信貴 職員のみなさんには、コロナ禍の中で最前線に立っていただいて敬意を表しています。

「チーム久御山」でやっている、「みんなで久御山町の歴史をつくっていっている」と理解していただきたいと思っています。

まずは「組織づくり」ですが、みなくるタウンや中央公園、環境政策などの事業を着実に進めていくため、昨年機構改革を実施したところです。その上でヒアリングも行いながら、いろいろと課題もあるかと思いますが適正配置をさせていただきました。「働き方改革」では、「第3次特定事業主行動計画」を策定し、「ワークライフバランス」などにも数値目標を設定しながら計画を進めています。これからも実践していきたいと思っています。

時間外労働についても、職員に働きやすい環境をいかにしてつくっていくのか、それぞれの部署で工夫も凝らしながら遂行していただきたいと申し上げます。「職員あつての行政運営」だと思いますし、大変な部分もありますが、みんなでどう改善していくかを議論しながら、「住民のみなさんのために」ということを念頭に、「チーム久御山としてがんばっていこう」と言いたいと思います。

岡本 計画はもちろん、「行動計画」もいろいろなことに着手され、その上毎年必ず評価を実施されていて「すごいな」と思っています。今日はどうもありがとうございました。